



## SNS家庭のルールで安全な利用を

校長 細川 靖雄

夏休み前の個人面談時、保護者の方から、お子さんに与えているスマートフォンやゲーム機器の使用について話題に上がることが目立ちました。

それを受け、長い夏休み前には、学校から「中島根小学校SNS学校ルール」をお示しするとともに、「SNS家庭のルール」の作成・実施についてのお便りを配布いたしました。ご家庭では、この夏休み中に作成していただいた「SNS家庭のルール」につきましては、一度学校にご提出ください。学級担任が、取組の様子等をお子さんに確認いたします。その後、ご家庭に返却いたしますので、ご家庭で引き続き取り組むようお願いいたします。

残念ながら、「SNS家庭のルール」の決め事が、思うように取り組めていないような場合には、次の点に配慮しながら再考し、より安全なSNSの利用を心掛けていただけますようお願いいたします。

### ○先に子どもの考えを聞く

自身で振り返ることで、何がよくなかったのかを考えよりよいやり方を見付けさせていきましょう。

### ○保護者からの心配事を伝える

大人からの視点で心配事を伝えることで、どのようなことに気を付けていかなければならないかを再認識させましょう。

(例) 生活リズムが崩れる、犯罪に巻き込まれる、体調が悪くなる 等

### ○約束事を守る

決めた約束事を守ることで、節度を身に付けさせていきましょう。あと30分であったならば、30分後には終わらせます。その都度、あと少しを許しては、ルールがルールとして機能しなくなります。

ただし、例外という時も考えられます。事前に、どのような場合ならば、例外に該当するのかを決めておきましょう。後々の大きなトラブルを避けられます。

(例) 緊急に友達と連絡を取り合う必要がある 等

### ○話し合いの結果を残す

改めて決め事を話し合った場合には、「SNS家庭のルール」に書き直しておきましょう。言った言わなかった、ということ回避できます。

先日、足立区教育委員会の方から、中島根小学校における児童用タブレットの使用について褒めていただきました。本区が推進している施策でもある、AIドリルの使用頻度が高い学校の一つであること、時間割の連絡手段や家庭学習等のため家庭でも使用していること等、タブレット端末が児童にとって身近なものとなっている点を繰り返しお伝えいただきました。

学校では、AIドリルを授業中のすきま時間や放課後補習学習、そして家庭学習や自習学習の一つとして小まめに取り組んできました。今後も、お子さんがタブレット端末を使用してAIドリルをすすめている様子を見かけた際には、励ましの言葉を掛けていただけますようお願いいたします。

本校では、2年生以上にタブレット端末を一人一台貸与されていましたが、この夏休み中に、1年生用のタブレット端末が学校に届きました。これから、徐々にその操作練習を行っていきます。

※児童用タブレット端末を利用した学習方法の一つであるAIドリルソフトは、AIが一人一人の学習のつまづきを解析し、個に応じて出題します。従って、そのソフトを使用すればするほど、AIがその子の苦手とする問題傾向を蓄積し、それに応じた問題が出されますので、夏休み明けも今まで以上に組み合わせてまいります。

# 9月の行事予定

9月の生活目標：規則正しい生活をします。

日	月	火	水	木	金	土
※SCはスクールカウンセラー、SSWはスクールソーシャルワーカーの来校日です。				1 SC 短縮 発育測定(5・6年)	2 鋸南前検診(5年) 発育測定(3・4年)	3
4	5 鋸南自然教室 始(5年)	6 SC 鋸南自然教室 (5年)	7 鋸南自然教室 終(5年)	8 SC 短縮 発育測定(1・2年) 安全指導	9 短縮 日光前検診(6年)	10土曜授業 引き渡し訓練 (3・4校時)
11	12	13 SC SSW	14 日光自然教室 始(6年)	15 SC 日光自然教室 (6年)	16 短縮 日光自然教室終 (6年)	17
18	19 敬老の日	20 SC 短縮	21 委員会活動	22 SC	23 秋分の日	24
25	26 短縮	27 SC SSW	28 クラブ活動	29 SC 短縮 プラネタリウム 鑑賞(6年)	30 短縮 社会科見学(4年)	

## 教育相談活動のご紹介

教育相談コーディネーター 森 菜乃

教育相談とは、学校生活における困りごとやご家庭での教育に関する悩みごとなどを伺い、カウンセリング等の様々な働きかけを通して、児童本人がより良い生活を送れるように支援することです。中島根小学校では2名のスクールカウンセラー（SC）と1名のスクールソーシャルワーカー（SSW）と連携しながら、教育相談活動を進めています。SCは心に関する専門家として、発達段階や状況に応じたカウンセリング等を行っていただいています。また、SSWは社会福祉等の専門家として、児童や家庭が置かれている環境に対し、関係機関の紹介や支援方法の助言をいただいています。相談は、保護者のみならず児童からも受け付けています。相談内容は学習や友人関係（いじめを含む）に関するだけでなく、習い事や家族についてなど、多岐にわたります。

今年度は、例年5年生のみに行っている全員面接を他学年でも行うことで、SCをより身近に感じ、相談しやすい環境作りを図ります。また、担任や養護教諭を窓口、より専門的な支援が必要だと感じた場合や保護者からの要望に応じて、SCやSSWを紹介することも行っています。さらに、学校に通うことに抵抗があるなどで悩んでいる場合の登校支援や居場所支援等を行うことに伴い、区の教育相談をご案内しています。進級・進学の際にご活用いただくこともあります。

毎年、夏休み明けは、心身の困りごと・悩みごとが増える傾向にあります。不安なことや心配なことがありましたら、担任または養護教諭へご相談ください。些細な事でも構いませんので、お気軽にご連絡いただければ幸いです。

# 夏休み期間の学力向上に向けた取り組み

研究推進委員長

夏休み期間中の一人一人の学習が充実するよう、様々な取り組みをしてまいりました。夏休み期間中に学校で行う一連の学習活動を「サマースクール」と呼んでいます。

また、今年度は夏休み期間前に保護者面談を行うことができ、お子さんの学習の様子についてお話を伺うことができました。これらに基づいて夏休み明け以降の指導をさらに充実させてまいります。今後ともご家庭のご支援・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

## ○夏休みの課題

夏休みの課題では、3年生以上でAIドリルを活用した算数と国語（漢字・言葉）の学習に取り組みました。一人一人が取り組んだ単元は、昨年度までの学習を分析した上で、お子さんにとって苦手となっている単元です。苦手な点と向き合うことは簡単なことではなかったと思いますが、それに取り組むことで確かな成長につながると考えております。夏休み明け、一回り成長した姿が見られることを楽しみにしています。

## ○夏季補習教室

夏季補習教室でも、昨年度までの学習の苦手な点を精選し、一人一人に課題を用意しました。一人一人、つまずきのある問題や理解が不十分なところを自分のペースで取り組める環境を整えました。

## ○そだち教室

3・4年生の対象児童は、夏休み期間中もそだち教室が開かれました。自分の決まった時間に登校し、一瀬先生との個別学習で継続した学習に取り組み、力を付けていました。

## ○あだち小学生夏休み学習教室

7月28日～8月3日まで、あだち小学生夏休み学習教室を行いました。3・4年生は国語、5・6年生は算数の学習に取り組みました。学習がどの程度身に付いてきたかを自分自身で確かめられる機会となりました。



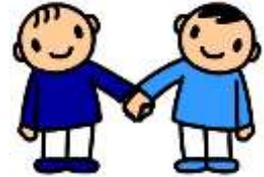
# コミュニケーションの教室「わくわくルーム」

わくわくルーム担当

「わくわくルーム」では、場や状況に応じた言動、心の安定、コミュニケーション力の向上のためのスキルを身に付けたりする支援を行っています。また、子どもたち一人一人の「困り感」を減らし、充実感を高めることを目標に進めています。

## わくわくルーム（学習方法）

お子さんの状況に応じて小集団指導（5～6名のグループ）や個別指導、学級での授業の様子を観察し、支援していきます。指導時間や指導形態は、お子さんによって異なります。



## （学習内容）

### □自立活動①（小集団指導）

5～6名程度の少人数の集団を設定して、他者との関係を上手に営んでいく練習が中心です。グループ内での発表やゲームなどを通して場に応じた適切な態度や言葉遣い、感情の出し方や抑え方などを学び、友達と円滑にコミュニケーションをとる力を身に付けていけるように学習します。



### □自立活動②（個別指導）

一人一人の実態、課題に応じた学習を行っています。自分の特性に応じた学習方法を身に付けることや、国語・算数などの学習の取り組みを通して、困り感を減らすための活動、主に「見ること」「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の力が身に付けられるように指導しています。



## 「見ること」ビジョントレーニングとは

例えば、黒板の字が見えにくい、板書の視写が苦手、音読等での飛ばし読みが多い場合に、視覚認知のかたよりを解消するため、動くものをゆっくりと目で追いかけるトレーニングのことでです。

## （よりよい支援のために）

□「わくわくルーム」での指導が円滑に進められるよう、「連絡ファイル」を活用し、授業の様子やお子さんの頑張りをお伝えしながら、ご家庭・各担任との連携を図っていきます。

□お子さんの実態を把握し、よりよい支援のためにスクールカウンセラー、巡回心理士、特別支援教育コーディネーター、区の専門機関等と連携しています。